

No. 1056

中日猛打でダッシュ

—プロ野球開幕—

ファン待望の1974年度、プロ野球は4月6日セ・パ両リーグ一斉に開幕しました。今年こそは優勝をと意気込む与那嶺中日は地元中日球場で広島と対戦。中日の先発は6年目で初めて開幕投手となった星野仙。森永新監督の広島は3回中日内野陣の乱れを足場に安打を重ね早くも先取点を奪います。更に5回山本浩の2ランで有利に試合を進めます。一方、中日は広島の先発佐伯を積極的に攻めますが、今一步及びません。しかし7回の裏変わった安仁屋からマーチン・井上が連安打し、続く木俣がレフト・スタンドへ逆転3ラン。三沢が締めくくって中日はこれで開幕戦5連勝、快調なスタートを切りました。

小野田さんの足跡

四月三日、桜満開の紀州路をたどった小野田元少尉は三十年ぶりに故郷、和歌山県海南市にある我が家へ帰った。久しぶりに自宅の居間で、しみじみとお茶を味わう小野田さん、その足跡は——

昭和十九年二十二歳。日の丸に送られて出征、フィリピン・ルバング島へ渡った。

昭和二十二年「ルバング島において戦死」戸籍から小野田寛郎の名は抹殺された。

昭和三十二年政府は調査団をルバング島に派遣。以後、度重る捜索にもかかわらず、生存の確認は得られなかった。

昭和四十九年二月、日本人青年、鈴木紀夫さんの手によって発見、救出された。

その間、三十年の歳月が過ぎ去っていた。三月十二日午後四時三十分、故国日本の土を踏んだ小野田さん。父母と対面、そして十八日間の入院生活を経て、四月一日、靖国神社へ参拝、英霊に長い黙禱をささげた。翌二日には、戦友の島田、小塚さんの墓へ参り、自らが背負いつづけてきた肩の荷をひとつ、ひとつおろしていった。

戦争は終わった。元陸軍少尉小野田寛郎さんは、人間ジャングルの中、社会復帰への一歩を歩みはじめた。